



萌木

5月号



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和4年5月11日発行

～自尊・立志・感動～

地域共生社会を創ることを意識して

校長 山田 勝

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応へのご理解ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

また、感染対策を行ったうえでの全校保護者会・部活動保護者会への参加、ありがとうございました。

4月23日は、「調布市防災教育の日」でした。今年度も引き取り訓練や避難所体験はできませんでしたが、今できる活動の中で、生徒が「防災」について考える一日とすることができました。

1時間目の防災啓発講話では、調布消防署の方が作成してくださったビデオを通して、実際に地震が起こった時を想定して防災知識を身につける学習をしました。避難時の行動での注意点(ガスの元栓や隣近所への声掛けなど)や、日頃から家族で発災後の行動について話し合う大切さなどについて学びました。

2時間目の「命」をテーマとした道徳では、各学年ごとにテーマを決めて取り組みました。どの生徒も真剣に命について考えました。かけがえのない命を慈しみ、大切に大事にしようという思いを、改めて自分の心に沁み込ませてくれたと思います。

3時間目の「避難訓練」でも放送・先生の指示をしっかりと聞き、真剣に訓練に取り組んでくれました。避難訓練の校長講評では「自助・共助・公助」について触れながら話をしました。

「自助」は、自らの命を守るための行動・役割です。「公助」は行政、市役所や消防署などが避難所を開設したり、被災者を救護するものです。そして「共助」は、地域の命を地域の力で守るための取り組みです。

地域の人、隣の人と互いの命を助け合う取り組みで、できることをできる人が担います。公助がくるまで、自分たちで命をつなぐために力を出し合って、助け合う姿勢が「共助」です。

昼間の時間に発災があったとき、調布市のような住宅地では自宅から遠い勤務地に多くの人が出ています。そこで、地域で学ぶ中学生の力が重要となってきます。中学生の自分が地域のためにできること、お年寄りへの声掛けや避難所への誘導や物資の運搬など、地域防災の担い手となることを意識していくことが共助につながります。

いざ災害が発生したとき、自分はどのように行動するのか、行動するべきなのか。自分の力で何ができるのか、自分の行動で誰をどのように守ることができるのか。そのようなことを考え確認する機会にできることが、調布市防災教育の日の在り方になります。

新型コロナウイルスまん延下の現在、地震などへの災害への心構えと通じるものがあると感じました。緊急事態宣言やワクチンなどの公助、マスクや手洗い、三密回避の共助、自制し自律する自助。公助が来るまでの間、地域の中で共助、自助に取り組み自らを助ける行動が大切なのだと改めて感じます。

そのような視点で現状を考え、今自分にできることにしっかり取り組んでいこうと思います。

七中生は、今日考えたことのうち何を自分の中に取り入れてくれるのでしょうか。経験を通し考え感じたことを吸収し成長する七中生であってほしいと思います。

防災であっても、感染対策であっても、地域のなかでともに助け合いながら命を守ることを目指すことを通して、「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指す【厚生労働省「地域共生社会の実現に向けて」より】ことを目指す「地域共生社会」の実現につながる一歩となるのではないのでしょうか。